



よらゝゝ
よらゝゝ

公民館



暑い！

去年も暑かったけれど、今年も毎日とっても暑いですね。私のこの夏の基本パターンは、
帰宅したら野菜に水をやり、エアコンの効いた部屋に入って缶ビールを飲む
という生活が定着してしまいました。夜まで暑かったので、エアコンで8月の電気代は高額でした。皆さんはこの暑い中、いかがお過ごしでしたでしょうか。

さて、先日公民館事業として「夕涼み会 in ようこそ広場」を行いました。特に良かったのは、中学生が中心となって、小学生や保育園児のためにゲームを考えて実施し、自分たちも楽しんだことです。

以前にも書きましたが、私の参加した社会教育の研修会で、
「町の人口減少を食い止めるには、中学女子がカギを握る」

と学習したことがあります。結婚したら、女性の実家近くに家を構える人をよく見ます。理由はいろいろあるでしょうが、女性が青谷に住みたいと思えば青谷に住む可能性は高くなるということです。その気持ちをいつ育てるかという、高校生になってからでは地域がバラバラになるので、その前の中学生のときでしょう。特に女子が住みたいという町にすると、巡り巡って青谷の人口が減りにくくなるということです。そんなことを考えながら、夕涼みの事業を行っていました。



とくさんの畑日記



初心を忘れていた・・・？

「とくさんの畑日記」を書き始めて5年目に入っています。当初、私は野菜づくり初心者だと言ってスタートしましたが、5年して野菜の作り方が少しだけ分かってきたように思います。

でも、そこが落とし穴。今年から私の畑の隣で野菜作りを始めた方は、何をしてもきちんと調べてから、自分なりに工夫して野菜作りをしておられます。※そういう性格かも知れませんが・・・。「秋の野菜づくり講習会」にも参加されました。学んだことは全て吸収するぞという姿勢です。

講習会の講師の先生が、「経験が少ない人ほど一生懸命で、素直に言われた通りにされるので、いいものを作る場合が多い」と語っておられました。つまり、

初心忘るべからず

ということですね。私も5年目に入り、気が付かないうちに初心を忘れて大切なことを省略したり、基本を疎かにしたりしているかも知れません。草は以前より刈らなくなった気がします。初心に返って、新たな気分で大根や玉葱を作ろうと思います。



青高生のメッセージボトル、京都で発見！⇒ピンの子プロジェクト

7月29日の日本海新聞に、約40年前に青高生が書いて日本海に流したとみられる瓶入りの手紙が、京都府宮津市の越浜海岸で見つかったという記事が掲載されました。流した人は、昭和59年に青高の生徒だったことまでは文から読み取れますが、誰なのかが特定できていません。同校の生徒会が「ピンの子プロジェクト」と名付けて現地調査に乗り出し、生徒会の生徒が瓶を見つけた男性と会って発見時の様子を聞き取る予定だ・・・というところまでは、新聞に載っていましたね。

その後、実際に京都まで行って、その方と会って話をしたということなので、青高で生徒会を担当していらっしゃる中嶋崇裕先生にお話を伺いました。



越浜(おっぱま)海岸で砂を調べる青高生

◎どうやって京都まで？

・朝7時前の列車で向かい、夜の8時過ぎに帰って来ました。

◎瓶を拾った方は、どんな人？

・拾ったのは山本さんという40代の男性で、自分の子どもとシーグラス(壊れたガラスが波にもまれて丸くなったもの)を探すために海岸に行ったそうです。たまたま手紙の入った瓶を見つけ、内容から、充実した学校生活を送り、友達に囲まれて楽しんでいるのだろうと感じたので、青谷高に電話したそうです。

◎現地ではどんなことを？

・瓶を拾ったという場所に行き、他の漂流物を見たり青谷の砂浜との違いを探したりしました。青谷の砂とは違って粒が大きく、鳴りそうな感じは全くませんでした。

◎生徒たちの反応は？

・山本さんに拾ってもらって良かったとか、自分なら拾わないし拾っても高校に連絡しないとか、当時は手紙を書くことが日常的にあったのだろう というような感想がありました。

◎一緒に京都へ行った中嶋先生の感想は？

・生徒たちは、仲間と一緒に探究し、自分の足で現地に行って調べました。このデジタルの時代ですよ。とても頼もしく思いました。瓶を拾って連絡してくれた山本さんに喜んでもらえて、生徒たちは満足そうでした。行って良かったです。

◎有り難うございました。

※生徒たちは青谷高の同窓会に出向いて「ピンの子プロジェクト」について説明し、当時の高校3年生にも尋ねましたが、流した本人は特定できなかったそうです。でも、自分の足で調べ、瓶を拾ってくれた人に喜んで貰えたことで、このようにアナログな探究の仕方に自信を持ったと思います。

おわりに

10月21日(水)の午前中に、「みら青プロジェクト」という青谷の小・中合同のイベントがあります。そのとき、生徒たちの拠点としてようこそ広場を使うことになりました。担当されている、青中の三島武志先生によると、青谷の町によくゴミが捨てられているから、小・中学生できれいにしたいということでした。私から見れば、青谷にゴミが落ちているかなと思うのですが、子どもたちは捨てられていると言うそうです。公民館の周りにはきれいです。川土手の草刈りをして、ゴミはペットボトル1本だけでした。青谷にどれだけゴミが捨てられているか関心があります。大人の参加も呼び掛けるそうなので、一緒に拾いましょう！